

令和 8 年 度

龍 谷 大 学 付 属

平 安 高 等 学 校 入 学 試 験 問 題

A 日 程

国 語

解答上の注意

1. この問題用紙は、「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
特に、解答用紙の受験科目欄にマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0 点となります。
3. 「はじめ」の合図のあと、受験番号を書き、マークしてください。
4. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。たとえば、**10** と表示のある問いに対して、③を解答する場合は、次の(例)のように解答番号 10 の解答欄の 3 にマークしてください。(例)

解答 番号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0

5. 解答用紙は機械で読み取りますので、折り曲げたり汚したりしないでください。
特に、訂正する場合には、消しゴムで丁寧に消してください。
6. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
7. 問題内容についての質問は受けません。(問題は持ち帰ることができません。)
8. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
9. 「やめ」の合図があったら、解答用紙を表に向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。

(問題は持ち帰ることができません。)

受 験 番 号

A dense grid of small, repeating patterns, likely representing a microscopic view or a highly detailed texture.

問題は次のページから始まります。

国語

(解答番号

1

裏面

101

5

25

105

・

201

5

204

)

第1問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

年に2回、直木賞や芥川賞^{あくたがわ}の受賞者が発表されますが、その受賞会見はテレビや新聞などで大々的に報道されます。その様子を見ていると、時々、A土中のモグラが急に太陽の下に出てきた時のような、そんな姿を思い出すことがあります。大変、失礼な表現ですが、決してネガティブな意味で言っているわけではありません。

普段テレビで見ている人たちの多くは、人前での立ち居振る舞いも自然で、見られることに抵抗がないように思えます。自らタレントになろうというのだから、それはそうなのでしょう。一方、世の中には当然そうでない人もいます。私は職業柄、人前で話をする機会は多いのですが、実はもう圧倒的にモグラ派人間です。スポットライトのようなものが、とても苦手です。

私もこうして本など書いているので物書きの端くれということになるのですが、文章を書くという作業の良い所は、一人でできる、ということです。誰に会わなくとも、他人との意見調整も必要なく、基本的には自分だけで作業が完結します。こういった他人とのつながりが切れた、独立性と言えばよいのか、ある種の孤独と言えばよいのかわかりませんが、そういうものが文章を紡ぎだすことに必要な要素として存在しているのではないかと、時々思います。自分を直木賞や芥川賞の受賞作家と並べて語るのも大いに憚^{はば}られますが、受賞会見で時々見るあの「モグラ感」には、なにかそのような要素を感じ、親近感を持つてしまうのです。

人間は社会的な動物で、どんな人も自分以外の人間とのつながりの中で生きています。みんなと同じユニフォームを着たり、同じ色の鉢巻^{はちまき}をしたり、そういった皆が同じことをすることで得られる一体感には、どこか気持ちを高揚させてくれる所があります。いろんな人と知り合いになれば、情報も多く入ってくるし、視野も広くなり世界が広がります。現代社会は情報社会であり、情報弱者は社会的弱者です。実際、他とつながり、より多くの情報を持てば、いろんな選択や判断に有利なことは多いでしょう。「モグラ感」なんて、一体、何に必要なのでしょうか？

しかし、です。極端な言い方になっているかもしれませんが、人は何かを知ってしまったと、知らない状態にはもう戻れません。それは悔れない真実です。他人と共有する情報が増えていけばいくほど、自分の感性や考え方がそういった「*」に感化されるようなことが起こります。また、何かの集団とのつながりが密になれば、周囲との関係で自分の行動が制約されることも起こります。たとえば新型コロナウイルス対策のマスク着用義務も解除となり、もう外に出る時にはマスクをしなくてもいいはずですが、周囲がみんなマスクをしていると、してない自分がどことなく居心地悪く感じてしまいます。日本は同調圧力が他国に比べて高いと言われていますが、こういった右へ倣^{なま}え的な行動が「つながり」の中では重視されてしまうのです。

世の中には、私も含めて、そういったものにうまくなじめない人がいます。みんなの考えになじめない。みんながすることにうまく同調できない。だから「モグラ」的になっていく。しかし、それは本当に良くないことなのでしょうか？ いくら同じように振る舞ってみても、実際にはみんなが同じであるはずはありません。なにかなじめない、本当はそれで良いのではないかと思うのです。それがその人固有の感性であり、個性です。そこに他の誰にも書けない、

あなただけの文章が生まれる可能性が眠っているのです。文章を書くという行為は、もちろん外からのインプットも必要ですが、より大切なことは自分の内部で何かを作り上げる作業です。それは作曲家が自分だけのメロディーを生み出すように、人まねではなく、どこかで聞いた話をつぎはぎするのもなく、自分の言葉で、何かを紡いでいく作業です。そこでは他から独立した時間や精神のようなものが何より大切で、いっそ土中にもぐって B 日光や新鮮な空気からも遮断されたような時空間が、その作業には適しているのかもしれない。だから隠しても隠しても「モグラ感」が出てきてしまうのです（……ような気がします）。

S N S やなんやで C 「つながり」とか「絆」がもてはやされる時代ですが、他から「独立している」という要素は実はとても大切なものです。※付度と^{そんたく}か、空気を読むというような振る舞いは、日本社会では常識となっていて、周到的な根回しをして波風を立てず事を進めていくのが日本の文化です。しかし、「つながり」を持った集団は良くも悪くも同じ論理や価値観を共有しています。そういった内輪だけで物事が決まると、しばしばそれは「暴走」のようなことを引き起こします。それは車で言えば、アクセルしかついていないような状態になるからです。中学生の時だったか社会の教科書を読むと、戦前にできた「大政翼賛会」に関してネガティブに書かれていて、みんなが賛成して協力しようというもののどこに問題があるのか？ と不思議に思った覚えがあります。それは結局、第二次世界大戦、そして敗戦へと日本を導くものになるのですが、そういった※ファシズム的なものに異を唱える存在、つまり異なった価値観でものを言える存在がない社会になってしまったことが問題だったのです。

少し話は変わりますが、ドイツ生まれの哲学者ハンス・ヨナスが

提唱していた生命観は独特で、この文脈で興味深いものです。ヨナスは細胞膜を通して物質が出入りする代謝、すなわち必要なものを環境から取り入れ老廃物を排泄^{はいせつ}することで、膜の内部に「特有の空間」を保持できることが、生命の本質と考えました。生命の代謝起源説と呼ばれるものです。そのような代謝を可能とする膜を持つことにより、周囲の環境に依存して増殖していた状態から、その適した環境を膜の中に作り自由に移動することが可能な存在になったとしました。つまり膜により生命は「自由」を手に入れましたが、同時に膜が破壊されることで訪れる「死」の宿命も背負うようになったと提唱したのです。この膜という境界により内部と外部を分けることで「生」を定義するシンプルな概念モデルは、生物の細胞だけでなくさまざまな事象に適用が可能です。内部環境が外部と異なった状態で維持されている状態が「生」、内外の区別がなくなれば、それは「死」です。

つまりこの生命の概念に基づけば、より大きな集団の価値観の中に同化することは、その人の個性の「死」を意味します。ファシズムのような熱狂はそういった「屍^{しかばね}」を次々と吸収して巨大化していくモンスターのようなものなのかもしれません。何かを創作する者にとってもそういった「境界」の崩壊は、まさにクリエイターとしての「死」であり、それに抗^{あらが}って自己内側の密度を保たなくてはなりません。それが独立しているということなのです。

だから D 「独立している」ことは、「敵対する」とことと根本的に違います。単にその対象とは異なった論理や価値観といった、違う内容物で内部が満たされているということです。外界の環境と無関係に、特有の「自己」に忠実でいられるということなのです。人間社会においては、そういった独立したものの存在が、物事の健全な発展や改善のために、実はとても重要です。価値観を共有した集団内であれば合意は簡単で、確かに物事はスムーズに進みます。しか

し、人間がやることには誤りがつきもので、違う価値観で動いているものからの指摘がなければ、それに気づけないことも多々あります。そういった自分たちと違う価値観からの指摘を入れて修正を繰り返すことで、物事は少しずつ発展、進歩していきます。

(中略)

そう、だから時代は「モグラ」です。付度も空気を読むこともない「モグラ」たちが土中から顔を出し、一斉に蜂起しなければなりません。それはなんだか社会が※全体主義的になり、中国に※与する奴は非国民みたいな変な空気に、「隣近所と仲良くしないで、どうすんの？」と、ごくごく普通のことを言っているようなことです。それが「モグラ」の心意気です。

(中屋敷均 『わからない世界と向き合うために』)

※(文中のことばの意味)

付度：他人の心中をおしはかること。

ファシズム：他の考えを認めない独裁的な権力体制。

全体主義：個人は全体を構成する部分であるとし、個人の自由や権利より全体の利益を優先するという思想や体制。
与する：…味方する。

問1 ———線A「土中のモグラ」とありますが、「モグラ」とは

どのような人のことですか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 1

- ① 外界と接触することなく、内省を重ねることで唯一無二のものを作り上げる人。
- ② これまで注目されずにいたが、自らの功績によって一躍脚光を浴びる人。
- ③ 作品の純度をより高めるために、社会との接点を意図的に断とうとする人。
- ④ 他者とうまく協調できず、自己の世界に閉じこもってしまっている人。

問2 *に入る語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 2

- ① 個性
- ② 理性
- ③ 常識
- ④ 知識

問3 ——— 線B「日光や新鮮な空気」とありますが、その内容として適当なものを、次の①～⑤のうちから二つ選びなさい。ただし、解答の順序は問いません。

解答番号は 3・4

- ① 自身で築き上げた価値観
- ② 社会から得られる情報
- ③ 自分だけで完結する作業
- ④ 他の人間とのつながり
- ⑤ 個人に依存している社会

問4 ——— 線C『「つながり」とか『絆』^{きずな}がもてはやされる時代』とありますが、筆者はこのような「時代」をどのようにとらえていますか。最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 5

- ① 「つながり」や「絆」という一見肯定的な意味合いをもつ言葉が、特定の団体の失敗を契機として、否定的な意味へと変質してしまった現状を嘆いている。
- ② 「つながり」や「絆」が、本来の「協力を通じてよりよい社会を目指す」という目的から離れ、価値観の共有自体が目的になっているのではないかと疑問を抱いている。
- ③ 「つながり」や「絆」が重視されることで、そうした関係から孤立した人々が排除される傾向が強まり、社会の分断を助長するのではないかと懸念している。
- ④ 「つながり」や「絆」の過度な尊重によって、価値観の多様性を抑圧し、結果として意見の表明が困難になる社会を招くのではないかと危惧している。

問5 ——— 線D『「独立している」ことは、『敵対する』ことと根本的に違います』とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 6

- ① 「独立」とは、自己の価値観を社会に発信して周囲に影響を与えることであり、他者の価値観との衝突を意味する「敵対」とは相対するものだから。
- ② 「独立」とは、他者から距離を置いて中立の立場をとることであり、その中立性が誤解され結果的に生じる「敵対」とは異なるものだから。
- ③ 「独立」とは、価値観の相違を主張することによって自己を確立することであり、他者への攻撃を意味する「敵対」は過剰な表現だから。
- ④ 「独立」とは、他者との差異を認めながら自己を保つことであり、他者との対立や異なる価値観の排除を意味する「敵対」とは一致しないから。

問 6 本文の内容に合致するものを、次の①～④のうちから一つ選
びなさい。

解答番号は

7

- ① 作家や作曲家が独自性のある作品を生み出せるのは、他の作
品について学ぶ姿勢とともに、自らの感性を磨いてきたからで
ある。
- ② 日本は他国に比べて同調圧力が強いため、物事が曖昧なまま
決まってしまうことが多く、後になって衝突が生じることが少
なくない。
- ③ 多くの人が似たような価値観を共有する現代社会において、
独立した視点を保つことが、健全な社会の発展にとって重要で
ある。
- ④ ハンス・ヨナスの「生命の代謝起源説」は、細胞膜という新
たな要素を導入することで、「生」と「死」を区別する革新的
な概念となった。

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

軽度の※自閉スペクトラム症と診断された篤史は、進路に悩んでいる。中学三年の夏休み、篤史は父（修太郎）と母（明美）の三人で、父の実家のある岐阜県各務原市に帰省した。そこには、篤史のいとこで同学年の翼が一人だけで帰省していた。

問題は翌々日に起こった。

この日の各務原は、気温は高いものの、空は青く、ときおり汗を乾かすような強い風が吹いていた。子どもたちは暑さに負けず、ふたりで自転車に乗ってあたりを散策するのだと云って、明美が握ってやったおむすびと、お茶とおやつをもってでかけた。それが十時すぎのことだった。

お昼まえ、篤史が「はらへったあ」と云いながら、ひとりで帰ってきた。

「あれ、翼くんは？」

「おむすび食べるって云ってたよ。おれ、疲れたからとちゅうで帰ってきちゃった」

「そう……」

篤史は出発してすぐにおむすびを食べてしまったらしい。翼はもつと遠くへむかったと云うが、乗っていったのは祖父と祖母がふだん使っている、いわゆるママチャリだった。長距離に適したロードバイクではないから、市内を少し走っていて、すぐに帰ってくるだろうと明美は思っていた。

しかし、翼は十三時をすぎても、十五時をすぎても帰ってこなかった。十七時をすぎると、さすがに明美も修太郎も、祖父母も心配

になってきた。翼のスマートフォンに義母が電話をかけると、返ってきたのは※SMSで、

「ちよっと遠出してます。夜には帰るので心配しないで」

という、Aまるで家出のような文言だ。どこにいるのかと訊いても、「だいじょうぶ、市内にいるよ」と返ってくるだけで、それ以上のことが書かれる気配はない。

明美と修太郎はあわてて篤史を呼び、「翼くん、あなたと別れたあとどこに行くって云ってた？」と訊ねた。篤史は「ああ」と云って笑うと、はきはきと答えた。

「翼くんおむすび持つてるから、ご飯なら心配いらないよ」

「といつても、夕食ぶんまでは足りないでしょう。ねえ、翼くんとどこで別れたの？」

「えーっとね。くすりのあおきだったよね」

※205号にある薬局かな」

祖父が横で呟く。

「けっこう距離があるぞ。ふたりでそんなところまで行ったのか」

「そう」

I

「ほかにはなんて？ そのさきどこに行くって云ってた？」

「うーん」

篤史は唸り声をあげた。頭に手のひらをあてて考えこんでいる。その芝居がかったしぐさに、明美は確信した。篤史はたぶん、翼の行方を知っている。

「夜になっちゃうと心配だからさ」

明美が空を指すと、篤史は頭を横にして悩みはじめた。まだ暮れるには早い、居場所を知るなら早いにこしたことはない。翼はしっかりした子だが、土地勘のない場所であることを思うと、所在がわからないのは不安だった。

明美が「教えて」とかさねてお願いすると、篤史はさらに喉の奥

で唸っていたが、やがて、「母上にはかなわぬ。翼どの、かたじけのうごさる」と、なぜかサムライ口調でつぶやき、

「山にのぼってくるってさ」

と云った。

II

「アルプスに行くんだって」

「アルプス？」

日本アルプスか？ と修太朗が云ったが、横から「各務原アルプスかい」と祖父がちいさく叫んだ。「そう、それ。各務原アルプス」と篤史が笑顔でうなづく。

III

「ひとりで行ったのか」

祖父は驚いていた。明美にはよくわからないが、中学生がひとりで行くような場所ではないらしい。

「どこからどこまで行くって云ってた？」

「ぜんぶ歩くって云ってたよ。そうじゅう、じゃなくて、じゅうそうするんだってさ」

IV

祖父は一瞬息を呑んだあと、ふっと力をぬいて、「そりやすげえや」と笑った。祖母は「まあ」と口に手をあて、修太朗は「縦走か、すごいな！ 」と、なにやら興奮している。家出ではないとわかって一同安心する様子であるものの、状況が把握できない明美は、じれ つた かった。

「この近くの山ですか？ 縦走ってなんですか？」

明美が訊ねると、修太朗が答えた。

「すぐその山だよ。標高が低いから、初心者でも登りやすい。ただ、東西に長くて、尾根が連なつてるところをぜんぶ歩くとなると——あ、尾根伝いに山を歩いていくことを縦走って云うんだけど、それをやっちゃうと、子どもの脚だと十時間はかかると思う」

「えっ」

そんなに、と明美が目をまるくするあいだ、修太朗と義父は口々

に云った。

「整備はされてるし案内板も新しくなってるから、迷うことはないだろうけど……子どもたちが出てつたのは十時ごろだったつけ。それで205を通って行くってことは」

「伊吹の滝の登山口から入ったのかもな。だとすると、猿啄の展望台のところの駐車場に降りてくるつもりじゃないか。——そうだ、荷物みてくる。ちよつと待ってる」

子どもたちが寝起きする部屋を見にいった義父は、ますます感心したような顔で戻ってきた。

「寝袋は置いていったが、キャンプ道具をぜんぶ持っていてる。

となると、計画して登りにいったな」

そういう義父の顔にはどこか気楽さがあり、ちよつと誇らしげですらあった。明美にはとうてい理解できない。

「じつは、翼は小五と中一の夏休みに、あの山をとちゅうまで歩いたんだよ。その年はあつちゃんが出来なくて、ひとりで退屈してたから、地元の子と遊べばいいやと思って地元の山歩きツアーに参加させたんだ。それがすっかり気に入ったんだな」

とはいえ、じきに日も暮れてしまう。そわそわする明美を察してか、義父が、

「ま、ひとまずもういちど連絡してみてくれるか」

と、義母にむかつて首をかしげ、義母は「わかった」とうなずいた。

電話をかけつづけていると、何度かつながらずに切れたものの、観念したのか、翼はやつと応えた。会話をスピーカーにし、いまだこにいるのか、どこで下山するつもりなのかとみんなであれこれと訊ねる。しばらくすると翼は「ごめん、心配かけて」と謝り、「明王山にいる」と告げた。

「すごい景色だよ。権現山も大岩見晴台も見える。体調もだいじようぶそうだから、金比羅山にも行ってから猿啄城跡を目指すつも

り。九時には着くと思う」

翼の意志は固いようだった。しかしだからといって、このまま進ませてよいものだろうか。この場に翼の両親がいけない以上、わたしたちが責任をもたなければ――。

しかし、義父はあっさりと答えた。

「わかった。帰りは迎えに行くから、下山前に連絡しなさい。水分補給もしっかりな。これから暗くなるから気をつけて。怪我するなよ」

「うん。水も食料もあるし、ライトも持つてる。ごめんね、ありがとう」

そのまま翼との通話は切れた。翼のことは、義父も修太郎も、義母も納得したようだが、明美は、まだひとりで不安のなかに取り残されていた。翼の身になにかあったら、と ^C 気が気でない。

「心配じゃないですか。その山できりあげて、戻ってくるように伝えたほうがよかったんじゃない……」

義父に告げると、

「でももう、全行程の八割がたを踏破してるからなあ。ここでやめたら本人も悔いが残るだろう」

「でも……」

明美が ^B 食い下がろうとした、そのときだった。

「だいじょうぶでござるよ、母上」

やけにまじめな顔で、篤史がすぐ横に立っていた。てっきり居間でごろごろしていると思ったら、いつのまにか話に参加していたらしい。

「翼どのはあおきでちゃんと食糧買ったでござる。山登りの [※] アプリももってるでござる。翼どのを信じるでござる」

「でもお母さんは心配だよ。翼くんが怪我したらたいへんでしょう」

焦る明美と反対に、篤史はみように落ち着いていた。ううん、と頭をふると、[※] 似非サムライ口調に疲れたらしく、

「平気だよ。翼くん、山のことすぐたくさん知ってるからさ。おれ、動物のこといっぱい教えてもらった」

と云った。だからそういうことじゃなくて、と明美が口をひらこうとしたとき、篤史はふつと真顔になった。

「おれたちだって、いつまでも子どもじゃないんだしさ」

明美は目を見開いた。まさか篤史に [©] 諷められるとは思わなかった。

明美にとって、いまでも篤史は手のかかる子どものままだ。もちろん、同年生まれの翼も。永遠に子どものままではないことはわかってはいたけれども、いま現在おとなでないことはたしかだと思っていた。しかし、いまのことばはなかなか――。

「とにかく、迎えはまださきだし、おれたちだけでも飯にしよう」
修太郎が云い、明美は ^D 狐につままれたような心地のまま、修太郎といっしょに台所に立った。

(『小説新潮』所収 広瀬りんご「やわらかい受験」)

※(文中のことばの意味)

自閉スペクトラム症……発達障害の一種。

SMS……携帯電話の番号で短いメッセージを送受信できるメールサービス。

205号……県道205号線。各務原市と岐阜市を結ぶ。

アプリ……特定の目的をもって作られた専用のソフトウェア。

似非……見せかけだけで、本物ではないもの。

問1 線a～cの文中における意味として最も適当なものを、あとの①～④のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は

8

10

a 「じれったかった」

8

① 心配だった

② はがゆかった

③ 疑問に思った

④ 納得しなかった

b 「食い下がろうとした」

9

① あきらめて身を引こうとした

② 理解ができず不満をあらわにした

③ 粘り強く主張を続けようとした

④ がまんできず反対しようとした

c 「諫められる」

10

① 注意される

② 非難される

③ 追及される

④ 弾劾される

問2 線A「まるで家出のような文言だ」とありますが、そのように感じた理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は

11

① 返事のなかの「遠出」という表現の裏側に、翼の反発心が感じ取れたから。

② 祖母は心配して電話をかけたのに、翼はSMSに返事を書いてきたから。

③ 翼から返ってきたSMSの内容には、場所や時間が具体的に示されていないから。

④ 翼は「心配しないで」と送信してきたが、一方で電話には一向に出る様子がなかったから。

問3 文中から、次の一文が抜けています。あてはまる箇所として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は

12

篤史はちよつと自慢そうに胸をはった。

④ ③ ② ①
IV III II I

問4 ——— 線B「ちよつと誇らしげ」とありますが、この時の義父の心情として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は

13

- ① 翼の居所がわかる手がかりをつかんだことを自分の手柄のように感じている。
- ② 準備を整えて各務原アルプスの登山を企てた翼のたくましさをうれしく思っている。
- ③ 十時間はかかる行程に寝袋を置いていく翼の自信あふれる行動に感心している。
- ④ かつて自分が連れていった山歩きツアーを翼が気に入ってくれていたとわかり喜んでゐる。

問5 ——— 線C「気が気でない」とありますが、この時の明美の心情として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は

14

- ① 義父の顔にどこか気楽さを感じているなかで、もしも翼に何かあった時には自分だけは責任を負うつもりだが、内心はやくもきしている。
- ② 土地勘のない翼が暗い山道を一人で歩いている状況で、翼にもしものことがあれば、翼の両親に申し訳が立たないと思っている。
- ③ すぐにでも登山を中止すべきなのに、修太郎のみならず義父や義母までもが、翼のことを信用しすぎているのではないかと感じている。
- ④ 明美だけが各務原アルプスのことを詳しく知らないため、翼の登山をこのまま続行させるべきか否かの判断がつかず、いてもたってもいられないでいる。

問6 ——— 線D「狐きつねにつままれたような心地」とありますが、そのような心地になった理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は

15

- ① 夜の山道を一人で歩いている翼が、もし怪我でもしたら心配でたまらないのに、のんきに食事をしようとする修太郎の姿を見て愕然がくぜんとしたから。
- ② いつかは子どもが大人になっていくとわかつてはいたが、篤史の言動から子どもの成長を実感し、突然にその時を迎えることになり寂しく思ったから。
- ③ まだまだ子どもだと思っていた我が子から、いつまでも子どもじやないと急に言われたことで、何がだかわからず呆気あつけにとられたから。
- ④ 篤史や翼が成長していると気づかされた自分と比べて、子どもたちの変化に気づかなかった修太郎に、もう少し子どもに関心を持つてほしかったから。

問7 次の①～④は、グループで「本文の読み取り方」について話し合った内容です。最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は

16

① 「明王山」や「猿啄城跡」といった実在の山や史跡などがたくさん登場していたね。この作品は小説でありながら紀行文の性格も持ち合わせていて、読者を旅にいざなう工夫がなされていると思ったよ。

② 「そう」「えっ」「でも……」などの短いことばが多用されているのが印象的だね。どのことばも誰の発言であるかを示す主述の表現が省略されているから、登場人物の会話の臨場感が読み手に伝わってくるね。

③ 登場人物の篤史は、翼と対比されながら描かれているね。翼が登山する姿に焦点を当てることで、逆に篤史の性格が浮き彫りになるよう表現され、思春期の心の揺れ動きが象徴化されていたね。

④ 明美の心理を中心に、明美の視点で物語が展開していたね。翼の居所がわかってから、明美以外の大人たちが次第に落ち着いた対応をとっていく姿を描写することで、明美の不安がより際立って感じられたわ。

第3問

次の各問いについて、それぞれ答えなさい。

問1 次の――線のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

解答番号は裏面の

101

く

105

1 米のキョウサクが続く。

101

2 銀行がガツペイした。

102

3 ひょうたんからコマ。

103

4 苦手をコクフクした。

104

5 夏休みはベツソウで過ごす。

105

問2 次の――線の語を、それぞれ現代仮名遣いに直しなさい。

ただし、すべてひらがなで書くこと。

解答番号は裏面の

201

く

204

(安徳天皇は) 山鳩色やまばとの御衣ぎよいにびんづらゆはせ たまひて、御涙におぼれ、小さくうつくしき御手をあはせ、 まづ東をふし をがみ、伊勢大神宮に御いとま申させたまひ、その後西にむかはせたまひて、御念仏ありしかば、二位殿やがていだきたてまつり、「波の下にも都の さぶらふぞ」となぐさめたてまつて、千尋ちひろの底へぞ入りたまふ。

(『平家物語』)

a 「たまひ」

201

b 「まづ」

202

c 「をがみ」

203

d 「さぶらふ」

204

問3 次の文学作品の説明について、最も適当なものを、あとの①～④のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 17 19

1 『万葉集』 17

ア 現存するわが国最古の歌集である。
イ 平安王朝らしい優美な作品が多い。

2 『枕草子』 18

ア 清原元輔きよはらのもとすけの娘である清少納言により書かれた。
イ 日本を代表する随筆文学である。

3 『高瀬舟』 19

ア 作者は夏目漱石である。
イ 「月日は百代の過客にして」の書き出しで始まる。

- ① ア、イともに正しい。
- ② ア、イともに誤っている。
- ③ アは正しいが、イは誤っている。
- ④ アは誤っているが、イは正しい。

問4 次の——線の語の「活用の種類」と「活用形」を、あとからそれぞれ一つずつ選びなさい。ただし、同じものを何回使ってもよい。

解答番号は 20 25

1 廊下を走はしってはいけません。

(解答番号は、活用の種類 20 ・活用形 21)

2 夕飯を食くべましょう。

(解答番号は、活用の種類 22 ・活用形 23)

3 直ちに急行せよ、と指令があつた。

(解答番号は、活用の種類 24 ・活用形 25)

- 《活用の種類》
- ① 五段活用 ② 上一段活用 ③ 下一段活用
- ④ カ行変格活用 ⑤ サ行変格活用
- 《活用形》
- ① 未然形 ② 連用形 ③ 終止形 ④ 連体形
- ⑤ 仮定形 ⑥ 命令形

これで問題は終わります。